男女共同参画委員会企画

JOYFUL通信

私のライフステージとワークバランス

弘前大学整形外科
藤田 有紀

自己紹介

私は愛知県名古屋市出身で、弘前大学進学時に青森県弘前市に移住しました。平成22年に卒業し、そのまま弘前大学整形外科に入局しました。卒業時に結婚し、3年目に三つ子を出産しました。産後8カ月で仕事復帰し、大学院をなんとか修了して関連病院に5年半勤務、その後現在まで大学病院手外科班に所属しております。また入局前から大好きなスポーツにも携わりたいと思っていたので、女性アスリート外来や県外の大学女子駅伝部のチームドクターを務めさせていただいています。

私の出産と仕事

私は以前から子どもが欲しかったので、授かったことはとてもうれしかったです。ただ予想外だったのは、三つ子だったこと（どうやっても人手が必要）、また整形外科医になりたてで仕事をもっとしたいと自分自身が（予想以上に）強く感じたことだと思います。今思えば仕事をしたいという気持ちは、周りの同期から遅れる、経験が積めない、という焦りからだったのかもしれません。しかし、子育てをしながら働くということはどうやっても時間の制約もありますし、産後は当直ができない、子どもが熱を出して急きょ仕事を休ませてもらわないといけないということもありました。幸い理解ある指導医と仲間に囲まれて、仕事はある程度自分のペースでやることができました。家庭環境にも恵まれ、子育ては夫と義父母にずっと助けてもらっています。それでも、子どもがいるから思ったように仕事ができない、と感じたり、逆に仕事のために子どもとの時間を削らないといけない、と感じたりしたこともあります。今思うと「無いものねだり」だったと思います。

ライフイベントとキャリアの両立

特に、女性はライフイベントとキャリアを積む時期がどうやっても重なってしまいます。このバランスに正解は無いと思います。また、この問題は女性医師だけのものではないと思います。男性医師であってもパートナーが医師の方や共働きの方も珍しくありません。また、頼れるご家族がいない、ライフバランスを仕事に置きたいか家庭に置きたいか、など人によって異なると思います。それは女性のみの問題ではなく、男女を問わず「みんな違ってみんないい」と思います。それに周囲が柔軟に対応できるような環境を無理なくつくれるような職場が理想といえるでしょう。

仕事に誇りをもって

「お母さん今日は何時に帰ってくる？寝る前に来る？」子どもが小さい頃から毎朝聞いてきました。最近ではその質問のあとに私が言わなくても「痛い人がいなければ早く帰ってくるんだね、頑張ってね」と付け加えてくれるようになりました。まだ子どもが手を離れたわけではありませんが、以前よりは少し手がかからなくなりました。これからは、ここまで働く環境を整えてくれた職場と家族に感謝しながら、できることをしっかりと頑張り、自分が少しでも同じような境遇にある若い世代に協力したいと思っています。